

維新、誤り認めず悪法後押し

入管法改悪案の審議が続くもとで、日本維新的会の異常な人権感覚が浮き彫りになっています。23日の参院法務委員会では、同委の委員を更迭となつた同党の梅村みずほ議員に代わり、音齊多駿政調会長が参考人質疑に立ちました。質疑の中で見えたのは、臆測に基づく発言の誤りを認めず、悪法強行に加担する維新の会の本質です。

参考人質疑 代わった音喜多氏も

といふのがその後、音楽多
氏は、梅村氏と同様に「被收
容者」と支援者団体のあり方
を問題視する質問を展開。
「社会と被收容者との摩擦を
引き起こしかねない支援団体
や内容を耳にしたことはある
か」などと参考人に聞いたの
です。支援者を不当におどしし

景言を繰り返した辯士は批判が殺到してしまった。
音喜多氏は眞頭、梅村氏の一連の発言について「十分だ根拠のない問題提起の範囲を超えた不適切な内容や、齋藤（せいひつ）な義理の場を乱すものが含まれていた」と認め、謝罪しました。

『20世紀の人権感覚』指摘も

これにとどまらず、音書多
氏は入管制度の運用に關わり
「人権は最重要である半面、
あまりに理想を追求しすぎると
社会の秩序が維持できな
い」などと外国人の基本的人
権を輕視する姿勢まで示しま
した。阿部氏は、20世紀の国
際法的感覚では国家の主権が

それに対し、元難波義和教授は、「阿部浩二明治学院大学教授は、「特段、問題は認識していない」と答弁。現役教授の川村真理杏林大学教授も「私の経験上ない」と述べ、音書多田の質問を「ムカムカしてしまった」。

この間の維新の質問は、入管行政の抜本的改革といつ法案審議の焦点から論点を切り替えてくると、どうでも悪質です。本質には切り込む、弱い立場の人たちを攻撃する、維新の姿勢そのものに根深い問題があります。（中野侃）

算など掲載される始末です。シッターでは、シャーナリストの津田大介氏が「あれだけ批判されても維新はこれ追求していくっていいスタンス変えないんだね」と投稿。難民支援をするフイターの織田朝日さんも「まったく真摯（じんし）に謝罪されていま

めの御題義のものが御題義だと云ひ申すので理解してしまふ。

前提だったが「21世紀にはその関係性が変容し、人間の権利がますますきになつていいく」と答弁。20世紀の人権感